令和３年度第１回岡山市総合教育会議

日時：令和３年８月24日（火）

場所：市庁舎　第３会議室

午後３時29分　開会

○司会　定刻となりましたので、ただいまから令和３年度第１回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は、全員の方にご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望がありますが、入室を許可してもよろしいでしょうか。

○市長　特段問題ないと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　はい。じゃあ、お願いいたします。

○司会　では、傍聴者の入室を許可します。

〔傍聴者入室〕

○司会　それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしくお願いいたします。

○市長　はい。今日はどうもありがとうございます。新型コロナウイルスの感染が拡大している中であります。当初デルタ株がここまで感染を広げていくというのは、あまり想定ができてなかったところがあります。感染拡大防止等、特にこれから２学期になって学校も始まっていきます。そういう面で、今、教育長、そして校長会の皆さん方とも教育委員会、議論していただいているところだと思いますが、そんな状況下であります。子どもたちの今後のことを考えながら議論を進めさせていただきたいと思います。

昨年度この総合教育会議で議論を重ね、本年３月、第２期の岡山市教育大綱を策定したところであります。新たな大綱では、「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」を育てることを目指し、そのために必要と考えられる５つの力と新たな数値目標を設定したところであります。本日は第２期の岡山市教育大綱策定後の最初の総合教育会議ということで、「新たな大綱を踏まえた学校における取組について」と題し、現在の学校の取組状況を踏まえた今後の方向性について議論していきたいと思います。

学校現場における取組、ご提案など、幅広いご意見をいただくため、岡山市中学校長会

の三木会長、岡山市小学校長会の山本会長、高島中学校の梅原校長、そして伊島小学校の渡部校長にもご出席をいただいております。４人の方にもこの議論に入っていただきたいと思います。

それでは、今申し上げました４人の方、それぞれ自己紹介をお願いしたいと思います。

まず、三木会長、お願いいたします。

○三木中学校長会長　先ほどご紹介いただきました、中学校の校長会を代表しまして、中山中学校の校長で三木と申します。

自己紹介を一言ということなので、もう間もなく夏休みが終わろうとしておりますが、今年の夏休みを振り返ってみますと、よく天気予報を見たなと。それから、雨雲レーダーをよく見たなと。雨が降りそうであれば、大雨にならないか、洪水は発生しないか。天気がよければ、部活動の子どもたちが熱中症にならないか。また、天気関係なしにコロナの状況はどうなのだろうか、うちの生徒はどうだろうかということで、気がつくとなかなか心安まるようなときがなかったなと思っております。

ただ、そういった中で、この夏休み、東京オリンピックがありまして、間もなく２学期が始まりますけれども、子どもたちを前にするとコロナがどうのこうのと重たい話ばっかしですが、今回はオリンピックでのアスリートがくれた感動みたいな、そういったこともしっかりと話題に挙げながら２学期が迎えられたらなというふうに思っているところです。今日はよろしくお願いします。

○市長　ありがとうございました。

続きまして、山本会長、お願いいたします。

○山本小学校長会長　岡山市の小学校長会の会長をしております山本と申します。よろしくお願いします。

私のほうも、この夏は天気予報とコロナの感染者の数は気にしながら過ごしたところです。今年で退職の年を迎えまして、私のイメージしていた最後の１年とは随分違う１年になっているなと感じながら日々を過ごしています。コロナ対応に苦心しながら学校経営を進めているというところで、こういうはずではなかったなと思いながら日々過ごしているんですけれども、反面、非常に校長としての仕事の面白さといいますか、やりがいを感じている１年でもあるなというふうに感じています。

大きな苦労を教員にかけながら日々過ごしているわけで、その中で一致団結して学校を守り立ててくれている姿を見ると、本当に校長としてはうれしいなということを感じま

す。それから、子どもたちの授業中の発言であるとか態度であるとかを見ながら、この中でしっかり頑張って勉強してくれているなということを見ると、本当にうれしいなということを感じています。多くの工夫と苦労をしながら進めていることがそんな形で見えてくると、校長として、たくさんの苦労はあるんですけれども、それが私のやりがいかなと思いながら過ごしているところです。

今日は教育大綱についての話合いということで、この前も市長とはいろいろとお話をさせていただく機会があって、教育大綱についてずっと見てきました。この教育大綱を見ると、校長としては、さらに夢が膨らむなということを感じていますが、なかなか先の話が私にはできませんが、今日これから先、岡山市の子どもたちにとっていい話をしたいなと感じているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

○市長　ありがとうございました。

山本会長、どこの小学校かというだけ、皆様方にご紹介を。

○山本小学校長会長　すみません。岡山市立の津島小学校です。よろしくお願いします。

○市長　よろしくお願いいたします。

続きまして、梅原校長、お願いいたします。

○梅原校長　失礼いたします。岡山市立高島中学校校長、梅原信芳でございます。

本日は、このような機会をいただきまして、ありがとうございます。市長には、６月末に本校にご訪問いただき、本当にありがとうございました。子どもたちの頑張り、そして教職員の頑張りを直接見ていただいて、本当に励みになりました。ありがとうございます。本日は、新たな大綱を踏まえ、Ｃｈｒｏｍｂｏｏｋの活用による授業改善の取組などについて後ほどご説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○市長　よろしくお願いいたします。

では、渡部校長、お願いいたします。

○渡部校長　伊島小学校の渡部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私、伊島小学校には、この４月に転勤してまいりまして、ずっとコロナのこと、前は興除小学校というところにおったんですけれども、そちらでも、もちろんコロナの対応をしてまいりました。その中で、だんだん地域の方と接する機会が少なくなって心配だなと思っていたところに新しい学校に来ると、本当にまだ地域の方と十分に顔を合わせる機会もないまま１学期が終わりというような形になっております。小規模だった学校から大変大きな学校に来て、たくさんの子どもたちに、まだ全員を目の前にして話をしたことがござ

いません。

　そういったような状況ではございますが、校長先生方がおっしゃったように、子どもたちにとって、コロナの中ではありますけれども、下を向くのではなく、夢を持って前向きに行けるような学校にしていきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○市長　ありがとうございました。

　それでは、議事を進めさせていただきたいと思います。

　まずは、協議事項、新たな大綱を踏まえた学校における取組について、教育長から説明をお願いいたします。

○教育長　「新たな大綱を踏まえた学校における取組」をテーマにして、この会議が開かれますことを本当にありがとうございます。

　今年度の４月、市長には、小・中学校の全ての校長が集まる会において、直接この大綱に込めた思いをお話しいただきました。また、教育長としましても、校長先生方にはリーダーシップを発揮して、子ども一人一人が社会に出たときに、それぞれの立場で社会に貢献し、自分もほかの人も幸せになれる世の中をつくっていけると、そのように教職員一丸となって取り組んでいただきたいということ、また学校と教育委員会が一丸となって子どもの力を育成していくということについてお話をいたしました。第２期大綱に示された取組がスタートしております。

　本日は、お手元の資料１に従いまして、教育委員会として、どのようなことを進めているのかご説明申し上げます。

　教育委員会では、新たな大綱に示された「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」を目指すために、学校の取組として必要なことを、目標・方針の共通理解と組織力の向上、また教職員個々の力量の向上であると考えております。そのために、周知及び研修・協議の充実、方向性などを示す資料作成、それから教育委員会の体制整備などを進めているところであります。

　具体的には、研修や協議の場で子どもに必要な力をつけるための学校の取組について説明や助言を行うこと、授業改善に向けたリーフレットなど指導に必要な資料を作成し、教職員の共通理解を図ること、情報教育推進室の新設やＩＣＴ支援員の配置などによって、１人１台のパソコンを効果的に使った授業を進めるための体制を整備する、そういったことなどであります。

学校の実態につきまして校長先生に尋ねましたところ、教職員の周知については校長先生によって全て行われていると把握しております。教育委員会としましては、今後教職員にさらに浸透させていくために、各学校での協議や教育委員会からの学校訪問、研修などで、さらに確実にしていく必要があると考えております。

また、第２期大綱では、活用力・表現力・向上心・社会性・人権尊重の精神を育むために４つの指標を設定し、必要に応じて学校の特色に応じた指標を追加して取り組むものとされております。この指標について今年度の学校の取組状況を取りまとめたものが左側の円グラフであります。

学校では教育活動と学校運営について様々な指標を基に評価を行い、その改善を進めるため、学校評価を毎年度実施しております。その指標の中に岡山市が設定している４つの指標全てを入れている学校は63％であります。また、４つの指標に追加して学校独自の指標を入れている学校は10％、４つの指標のいずれかは入っていますが、学校独自の指標で評価しようとしている学校は27％であります。いずれもどのような指標で５つの力を高める取組の成果を見ていくか、学校や子どもの実情に合わせて協議をしながら進めているところであります。

グラフの右側には幾つかの例を記載しております。これらの数値を把握するために、学校では子ども、教職員、保護者等への意識調査などを実施してまいります。また、約半数の学校は５つの力を高めるために必要なことや、指標について、学校単位だけでなく、中学校区での協議が必要だということを考えていることも分かりました。教育委員会としましては、これらの結果を学校に返し、指標の考え方や学校が何をどのように取り組んでいるのかについて協議を行うなどし、よりよい取組に結びつけてまいりたいと考えております。

説明は以上であります。

なお、本日はこの後、校長先生方から学校の具体的な取組をご説明いただくようお願いをしております。どうぞよろしくお願いいたします。

〇市長　ありがとうございました。

それでは、資料２について、三木会長から説明をお願いいたします。

〇三木中学校長会長　失礼します。資料２に沿いながらということで説明をさせていただきます。

まず、１番の大綱を踏まえて特に重点的に進めることですが、先ほど教育長からのお話

の中にも校長のリーダーシップが大変大切なんだというお話をいただきました。１期の大綱を受けて中学校が大きく変わった点、授業改善が大きく変わりました。その具体として、校長会での意思統一、もうこれは本当に簡単なことで、授業の中でめあてをまず入れようと。小学校では早くから取り組まれていましたが、中学校では皆無の状態でした。これを校長会のほうでやろうと。とにかく自分の学校で授業でめあてを教員にまず立てさせよう、そのことを徹底してまいりました。めあてを立てるということが50分間の授業全体の設計にも関わってくるということで、このことが大きく有効に働いたかなと思っています。

このことを考えましても、やはり校長会で大きな共通理解、意思統一をしていくということが大変重要であると考えます。ここから第２期の大綱に沿いながら、まだ実際のところはこれからですが、校長会のほうでも１期を受けて、２期に当たっては、こういったことは岡山市の中学校全体で共通理解の下でやっていこうというものを立てながら、これから進めていけたらなと思っているところです。

さらに、この年度初めからＣｈｒｏｍｂｏｏｋの導入、１人１台の導入が入ってきました。これは学校現場にとって大変大きな変化かなというように思います。このＣｈｒｏｍｂｏｏｋの活用というのは、この第２期の教育大綱に示された育む５つの力、活用力・表現力・向上心・社会性・人権尊重の精神、この全てを育んでいくツールとして大変有効であると考えています。このことも、あくまでもＣｈｒｏｍｂｏｏｋはツールであるということで、目的はその奥に大きな真の目的があるんだということ、このあたりも校長会のほうでも常に確認をしながら進めていけたらなと思っているところです。

さらに、大きな２番の校長会としての取組、先ほどと重なりますが、まず下側の丸ですが、授業等での効果的なＩＣＴ活用についての研修ということで、この１学期から各校がＣｈｒｏｍｂｏｏｋを活用した授業等を進めています。実は私はなかなか教員のほうにも得手不得手がありますので、これを導入して各学校が実際のところどうかなという心配をしておりましたが、教員の意識はかなり高く、これを使っていかないといけないという部分で、いろいろと工夫を凝らしながら今活用をしてくれているところかなと感じているところです。この各校での取組をさらに校長会でも研修を設けて成果と課題を出しながら、それをまた各校に戻していくという作業を２学期に計画を立てているところです。

それから、３番のところですが、各校の取組というところで、具体的な取組として、地域、学校園の連携、「人権尊重の精神」の育成につながる取組として１点挙げさせてもら

っています。コロナがはやり出しまして、不幸なことに命を絶つといった事例もあるようです。この取組を行った頃になりますと各学校で生徒またはその家族、誰が陽性者になってもおかしくないなという状況ではありました。そういった状況の中で、本当に学校だけで子どもを守れるのかといったときに、なかなか学校の範囲だけでは守り切れないと思いまして、中学校区で地域の力を借りながらということで、地域協働学校を通して連合町内会長等にお願いをしまして、呼びかけのビラを作成しました。

地域の方は、これは回覧では駄目だと、各戸に全てにビラを配布しなさいと、その予算は地域が持ちましょうということで、学校だけではできないようなことを実際地域の力を借りて取り組むことができました。ここでなぜ挙げたのかといいますと、２期の大綱の中の５つ目にあります人権尊重の精神、このことは学校の安全・安心につながる。自分の学校は安全なんだと、安心なんだということにつながる。このことが余計な心配なく学業に取り組んだり、いろんな活動に取り組めるということで、これは実はすごく大きなことかなと考えています。今この時期、コロナがまた大変心配な状況にあります。こういった取組を受けながら、またさらに学校だけじゃなくて、地域も含めながら、学校が発信をしながらということで進めていけたらなと思っています。

最後に、「めざす子どもの姿」に向けた、個に応じた指導の充実ということですが、学校ですから集団活動の場であります。集団での学びの場でもあるわけですが、そうした中で集団と同時に、指導の個別化それから学習の個性化を進めることが大事かなと思っています。これは２期にあります、目指す子ども像の中にある「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」の育成、これにつながることで、全体の基本的な大事なことと、自分に合ったものは何なんだろうかということ、こういったことを学校の中で実際体験とか気づきができるような、そういった場をしっかりと提供していくことがこの２期の大綱につながっていくかなと考えているところです。

簡単ではありますが、以上でございます。

○市長　ありがとうございました。

では、山本会長、お願いいたします。

○山本小学校長会長　失礼いたします。資料３に小学校のほうをまとめさせていただいております。

大綱を踏まえて特に重点的に進めるということなのですが、１期の教育大綱に向けて、小学校では、それ以前から授業改善、授業づくりについては非常に積極的に取り組んでい

たところがありました。１期では学力向上というところを直接的に狙っていこうということで、学力テストであるとか、それから岡山市の学力アセスであるとか、その結果を分析をして、それを授業に反映させていこうという取組が中心だったわけですけれども、この２期の教育大綱、５つの力を設定して、その育成を目指していくということになりますので、授業づくりを中心にして進めていくということは小学校ではやっぱり一番中心になるとは思うのですが、今までよりは、さらに広く子どもたちの学習活動を設定しながら情報活用であるとか、あるいは表現力であるとか、そういったことがきちんと身につくような授業デザインをしていくということが、まずは求められるかなというふうに感じています。

それが中心的なところになっていくかなということなのですが、さらに２期の教育大綱では向上心であるとか社会性であるとか人権尊重の精神といったような、子どもたちに生き方であるとか、そういったことに関しての力を身につけさせようということになってきますと、小学校の教育活動の中で、さらに幅広く使える場面、使える状況はどこかなということで検討していく必要があるかなと感じています。例えば、学校行事の中で、運動会の中で、宿泊行事の中で身につけさせていけることがあるだろうと。あるいは、児童会活動の中で、つまりより効果的にそういったものを身につけさせることができる場面というのをこれから検討し、実践し、検証することで、それぞれの教育課程の中にきちんと位置づけることがまずは大事かなというふうに感じています。より広いことが求められる２期の教育大綱に対応するということです。

その中で、我々に１つ武器が与えられたなと。それがＣｈｒｏｍｂｏｏｋだと感じています。先ほど三木会長からもお話がありましたが、これがあればオールマイティーというわけではなくて、子どもたちにとって、情報を収集するとき、それから情報を発信するとき、何かを表現するときのツールとして、これはこれから多分生涯にわたって大きな武器になるし、今の学習を深めていく上でも武器になると。ただし、目的であるとか、それについてはきちんと学習の中で位置づけてやる必要があるだろうなと。ここを取り違えないようにしながらＣｈｒｏｍｂｏｏｋの活用は推進していきたいなと感じています。この２点は、重点を置いてこれから考えていかないといけない部分かなと思っております。

では、校長会として、どのような取組ができるかなと考えたときに、今言ったような授業づくりであるとか学校行事の充実であるとか、あるいはＣｈｒｏｍｂｏｏｋを適切に子どもたちに活用させるといったときには、それを指導する教員の側の力量が必ず求められ

るようになると思います。この人材育成であるとか人材確保が学校現場にとっては本当に大きな課題になっています。校長会としては、それぞれの学校で校内研修をしているわけですけれども、効果的な校内研修の在り方、ＯＪＴの在り方、これについては校長会の中で共有するように、そういった場を設けています。学校の規模によっても随分取り組み方が違ってきますので、規模別に分かれながら情報交換をするというふうな手法で、どの学校にとっても人材育成が図れるような、そういったことが大事かなと考えて取り組んでいるところです。

それから、教育委員会等との協議ということになっておりますが、校長会として人材育成会議というものを持たせてもらっています。８月31日に今年はちょっと早めて開催をすることにしています。教育委員会からも来ていただいて、一緒に人材育成をするにはどうしたらいいかという話を進めていこうと考えています。小学校の教員は、小学校教育研究会という研究団体がありますので、これで今まで教科指導の力等についてはつけてきた部分もありますので、その担当の校長も参加をします。多面的に人材育成について話し合って、どのように育てていくかなということを考えていきたいなと思っているところです。今年は実現しなかったんですが、昨年は教員養成に関わる大学の先生方にも参加をいただいて、一緒に話し合いました。

それから３つ目になりますけれども、校長が講師となる研修ですけれども、常勤講師が現場にはたくさんいらっしゃいます。こういった講師にも、しっかり研修の場を確保しようということで、校長が講師を務めて力量向上を図っていこうということで、今年も実施しました、夏期休業中に。コロナ禍で人を集めるわけになかなかいかないなということで、今年は挑戦をしようと、リモートでの研修をしようということで、各区、東区・南区・北１・北２・中区、それぞれ校長が講師を務めて、リモートでの研修を進めました。校長にとっても、いい研修になったと感じています。

その下ですけれども、校長の研修の実施ということで、まずは校長のほうもＣｈｒｏｍｂｏｏｋをどんなふうに使えるのかをしっかりと勉強しようということで、先ほどのことと連動しますが、これについても市教委に今年できました情報教育推進室にご協力をいただいて、校長を管理職としてＣｈｒｏｍｂｏｏｋをどのように使わせようかという研修を設けたところです。本当に校長も熱心にこの部分については研修を進めています。

最後に、各学校の取組ということでお話をさせてください。

学校の教育活動、様々あるわけですけれども、この教育大綱を考えたときに１つ大切に

し重点を置いたらいいかなと思うことが、総合的な学習の時間の取組です。もともと探究的な学習ということでの位置づけがありますので、これを充実させていくことで教育大綱でねらっている力を身につけていくことがより効果的にできるというところがあると思っています。ですけれども、それだけでは不十分だろうと。

各教科で身につける力も相まって力というのは総合的についていくと考えますので、２つ目に書いてありますけれども、各教科で学んだことをうまく使う場面であるとか、もしかすると活用力であるとか表現力については他の教科であっても十分に身につけていくことができるだろうと考えますので、手法として各教科での探究的な学びをしっかりと研究して、授業として位置づけていくということができるかなと思っています。トータルとしては、カリキュラムマネジメントの考え方を生かして、学校全体で身につけさせていく力というのを想定することが大事かなと思っています。

最後、先ほど話の中に出てきましたが、これらを効果的に身につけさせていこうと考えたときには、各校種だけで取り組んでいるのでは、なかなか効果が上がってこないかなと思いますので、従来岡山市が力を入れている岡山型の一貫教育をうまく活用することで小学校入学前から、そして中学校卒業までの間に身につけさせていくことができるかなと思っています。多くの学校がそういった形で取り組むことが可能だろうと思っています。

ちなみに、私、京山中学校区におりますけれども、去年作ろうということで作ったものがあります。例えば、学びの系統表ということで、一部だけ紹介します。「主体的な学び」というキーワードを基にして、小学校では、例えば疑問や感想、願いを基にめあてを持つことができる。探究的な学習のスタートになるかなというようなことであるとか、根拠を基に考えを比較したり検討したりすることができるというような幾つかキーワードになるようなことを設定をして、幼稚園、保育園、それから小学校、中学校、縦の系統の中で育てていくということを目指したいなと考えているところです。

各学校での取組ということで、こういったことが考えられるかなと思うのですけれども、一番私が気にしていることは、これを全ての学校が押しなべて全て同じように取り組んでいくという方向性で進めていくのか、各学校は自分の学校の特徴であるとか地域性であるとかを基にして、独自の取り組み方、ですから、もしかすると総合的な学習の時間に力を入れるというよりは、ほかのことに力を入れて育てていこうという学校があったり、いやいやいや、やはり総合的な学習を大事にしようという学校があったりというふうに、学校ごとの取組がまちまちになっていくんだけれども、その中で力が育っていくというふ

うな全体としてのデザインをしていくのかなというところが、岡山市全体として考えたときには一つ方向性としては考えておく必要があるのではないかなと感じているところです。

たくさん申しました。私のほうからは以上です。

○市長　どうもありがとうございました。

それでは、梅原校長、お願いいたします。

○梅原校長　今年度、本校が取り組んでいるＩＣＴ・Ｃｈｒｏｍｂｏｏｋを効果的に活用した授業実践について説明させていただきます。

第２期岡山市教育大綱では、岡山市が目指す子どもの姿と、目指す子どもの姿に必要な力である育む５つの力をお示しくださっています。まず、この育む５つの力とＩＣＴ・Ｃｈｒｏｍｂｏｏｋを効果的に活用した授業で育成する力の関係を説明いたします。

今回の授業実践では、情報活用能力の一つである情報活用の実践力と各教科等で育成する力、学習活動を通じて育む力を大綱の５つの力に関連づけました。情報手段であるＣｈｒｏｍｂｏｏｋを適切に活用することやテーマに沿って情報を収集し、整理し、発表する活動を通じて情報活用の実践力を養い、それは５つの力の活用力の育成につながります。

また、各教科の内容について整理し、既習事項を活用することは活用力の育成に、学習課題に沿ってまとめたものを表現することは表現力の育成につながります。さらに、ＩＣＴ・Ｃｈｒｏｍｂｏｏｋを効果的に活用することで、生徒は教科の内容への興味・関心を持ち、学ぶ意欲を高めます。これは育む力の向上心の育成につながります。

学習活動の工夫の視点では、学習班で行う協働的な学習活動を取り入れることで、協力して学び合う姿勢や他者の考えを尊重する態度を養います。これは育む力の社会性と人権尊重の精神の育成につながります。このように育む５つの力と情報活用能力、各教科等で育成する力、学習活動を通じて育む力を意図的に関連づけた授業づくりを進めることが大切であると考えております。

６月に参観してくださった社会の授業では、既習事項である歴史的事象を関連づけて整理し、その時代の流れを捉えることができました。Ｊａｍｂｏａｄと呼ばれる付箋機能を使って図に整理することは、表現力の育成にもつながると考えました。英語の授業では、「日本限定のアイスクリームのアイデアを考える」というテーマの授業でした。語句や文についての既習事項を活用して、学習班でイラストや言葉を入れてアイデアをまとめた発表資料を作成しました。この学習では、活用力だけでなく、協力して学び合う姿勢や他者

の考えを尊重する態度の育成を図りました。さらには、作成した発表資料を使って英語でアイデアを発表する活動は、教科でこその表現力を養います。

教師は日々こういった力を育むことができる授業をつくる力を身につける必要があります。本校では、今年度、資料の２ページ目、裏面のほうに示す取組を行っております。

まず、授業を行う教師全員の授業ＰＲです。一人一人の教師が、これが私の授業の特徴、魅力、工夫ですというものを簡単にまとめ、全員のＰＲを表にしました。そのことが相互参観授業につながります。大綱では、校長を中心とした校内の授業参観、指導助言を週に２回以上と示しておられます。本校では、これに加えて、生徒が学び合いを大切にすることと同様、教師が互いに学び合うことが大切だと考えました。そこで、今年度、特定の授業参観日を決めず、自由に授業を参観することにしました。その際に先ほどの授業ＰＲで見どころを確認し、共通の授業参観シートを用いて参考になったことなどの気づきをシートに記入しました。参観後、参観者が授業者に気づきを伝えます。

もう一つが、「デザイン思考」による授業改善です。デザイン思考は教育現場では聞き慣れない言葉ですが、予測困難な時代の中での課題解決のための手法として、企業経営等で用いられているようです。この手法を活用する上でのポイントにユーザーの本質的なニーズを探るということがあります。授業でいえば、生徒は勉強したくない、どうせ自分はできないといったネガティブな表現をすることがありますが、実はどの生徒も分かりたい、できるようになりたいといった本質的なニーズを持っていると考えます。課題解決のためには、生徒の立場に立って考えることが大切であり、その前提として生徒理解を深める必要があります。生徒の本質的なニーズであるポジティブな思いがあることを理解し、その感情を引き出す授業をつくるということです。

ＩＣＴ・Ｃｈｒｏｍｂｏｏｋを効果的に活用した授業づくりを進め、生徒がわかった、できたと実感し、それをうれしく感じられることを目指していきます。この考えは授業づくりだけでなく、本校の他の課題解決に向けて今取り組んでいるところでございます。そのほかにも、今年度、市教委が行ってくださっておりますＯＪＴの授業や市教委が作成してくださっております資料を活用して取り組んでいるところでございます。

最後に、現時点での成果です。

１学期末に、先ほどのデザイン思考で考えた生徒の潜在的ニーズに関する質問項目と教育に関する総合調査の質問項目で全校生徒を対象に調査を行いました。資料の最後のところです。

潜在的ニーズに関する質問項目である「授業で、わかった・できたと感じてうれしくなるときがある」は、「あてはまる」と答えた生徒が56％、「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒が31％いました。肯定的な回答を合わせて87％と比較的高い結果が得られたと思います。教育に関する総合調査の質問項目である「学校の授業はわかりやすく楽しい」は、令和２年10月と比較して肯定的な回答の割合が上昇しました。特に「あてはまる」の回答は24％から35.1％と11.1％上昇しています。肯定的な回答の割合で考えも、14.7％上昇しています。この結果はＩＣＴ・Ｃｈｒｏｍｂｏｏｋの効果的な活用だけでなく、授業づくり全体の取組によるものだと考えています。今後も授業のねらいの達成、育むべき力の育成を目的とし、ＩＣＴ・Ｃｈｒｏｍｂｏｏｋの活用を授業づくりの視点の一つとして取り組んでいきたいと考えています。

以上で説明を終わります。

○市長　ありがとうございました。

渡部校長、お願いいたします。

○渡部校長　失礼いたします。私のほうからは、新たな教育大綱を受けまして総合的な学習の時間について見直しながら取り組んでいる様子についてご説明申し上げます。

資料５をご覧ください。

十分な実践等はまだなっておらず申し訳ないんですけれども、よろしくお願いいたします。

取り組み始めたところなんですけれども、感じているのは、これまで取り組んできたことに新たなはっきりとした視点、５つの力という視点が与えられ、よりよい子どもの成長に向けた学校教育や学習を見直していくことができるなというようなことを感じています。

では、実践の概要を申し上げます。

この総合的な学習の時間では、福祉の内容を取り扱っています。学習は伊島学区は暮らしやすい町になっているのかという問いかけから始まり、身近な学区の福祉的な施設や設備を探す活動、それから車椅子体験、アイマスク体験、高齢者の疑似体験などの活動を行います。こうした活動を通して子どもたちは疑問や考えを持ち、そこから障害とは何か、補助や支援はどうあるべきか、自分にできることは何かという課題に取り組んでいきます。調べ活動や友達との対話を通して課題の解決に迫り、また新たな課題を持っていくというようなものです。課題と解決の繰り返しの中で探究的な学習が深まっていくと考えて

います。

資料中ほどの表をご覧ください。

これまでも探究的な学習の場として総合的な学習の時間に取り組んできたわけですけれども、それがこの表の一番左端の列に示している授業の流れです。課題の設定というところから、まとめ・表現へとつながっています。今回、教育大綱に５つの力が示されたことから、改めてこの総合的な学習の中に５つの力がどう位置づいていくのかということを模索しています。もちろん総合的な学習の中だけで人権尊重の精神とか社会性などが身につくとは思っておりませんけれども、総合的な学習の中で子どもの姿や学習場面を見直し、どの視点に関連づいているのかというのを探っているところです。

アからスの場面を位置づけてみていますが、例えば地図上に表すというのは、社会科で地図を学んだことを活用しているというようなことを指しているわけですけれども、これも見方によりましては別の場所に位置づけたほうがいいのではないかとか、ほかにもあるのではないかということもまだ考えられるなというふうに進めているところです。例えば、オの場面で、ポスターや作文、プレゼンソフトを使って、学んだことや考えたことを下学年や家族、地域等に伝えるという場面を取り上げていますが、これは現在、表現力を発揮している場面と位置づけておりますけれども、社会性を発揮している場面とも捉えることができるのではないかというふうに迷いながら進んでいるところでございます。

こうした取組をしている中で、いずれも校長先生方がおっしゃっておりましたけれども、この総合的な学習の時間だけではなくて、全ての教育活動の中で考えていく必要があるなというのを改めて感じているところでございます。また、この教員の教育への姿勢も変わってきているなというのを感じています。この見直していく作業は大変な作業であるなとも感じておりますけれども、確かにこうやって見直していくという活動は今日あしたに簡単に完成するものではないとも思いますが、反面、難し過ぎて取り組めないというものではないなとも感じています。それは冒頭に申し上げたように、これまでも既に我々が取り組んできたことでもあるからです。これまでの教育をどう位置づけていくかということじゃないかなと思っています。

いろいろ申しましたけれども、我々学校と、それから保護者、地域、広くは市民にとっても同じ視点を持ちやすくなり、岡山市の教育が全人的な育成、社会性であるとか、そういったような部分のところ、人権意識の尊重、全人的な育成を目指しているということを共有できる、そういうものになっていくのではないかなと思いながら取り組んでいます。

大変簡単ですけれども、以上でございます。

○市長　ありがとうございました。

それでは、５人の方からお話をお伺いいたしました。今日の位置づけというのは、我々で大綱を作成し、そして１学期が終わったところであります。我々がイメージした大綱がこの校長会、また各個別の学校の先生方によって、どう実践されているのか。我々としてお願いすべきこと、ないしは若干こういうふうに直してほしいということもあってもいいと思うんですけれども、どしどし委員の皆さん方からご意見をいただければと思います。どうでしょうか。どなたからお話をいただけますでしょうか。手を挙げていただければと思いますが。

じゃあ、近いところから行きましょうか。妹尾委員、お願いします。

○妹尾教育委員　ありがとうございます。大変全体としても興味深くお聞きさせていただきました。特に両校長会の先生がそろって挙げられているＣｈｒｏｍｂｏｏｋの活用について、高島中学における実践例というのを非常に興味深く聞かせていただきました。いろいろお尋ねをしたいところがあるので、意見というか、これは質問になってしまう部分があるのかもしれませんが、お答えいただければと思います。

例えば、社会科で、ごめんなさい、私もよく分かってないんですけど、Ｊａｍｂｏａｄの付箋機能を使って重要語句の関連づけをした授業を実践されたということで、実際にこれはどんな感じにされているのか。特にこれまでの授業であれば、模造紙か何かに付箋を貼って、いろいろやっていくという作業になろうかと思うんですけれども、それとの違い、有用性であるとか、あるいは逆に限界というのか、そのあたりも、例えば、これ、じゃあデータとしてはこういう形で出ているんですけれども、これは成果物というのか、何というのか、ノートに残すとか、そのあたりのことはどうなっているのかなとか、いろいろ疑問に思ったので、分かる範囲で教えていただければありがたいです。お願いします。

○梅原校長　失礼します。実はこの実践というものが本当に始めたばっかりで、試行錯誤で、できることから始めてみようということでのスタートだったわけですけれど、先ほどおっしゃっていただいた、じゃあこのＪａｍｂｏａｄを使って、付箋機能を使って、どんなことができるのか、今までのやり方とどう違うのかということです。そもそも今までの既習事項を体系づけて整理をしていこうということ自体が十分にできていなかったのかもしれません。ところが、そのことの大切さを感じていながら、どうやってやれば、それができるのかというところからの発想で、これを使うと、もしかすると効果的にできるので

はないかということで活用をしたということであります。

今ご指摘がありましたように、実は本当にやろうとすれば、模造紙に付箋を使って実際に貼り付けるという作業、これは時間も労力も費用もかかります。ところが、このようなＣｈｒｏｍｂｏｏｋを使うことによって、本当に簡単に整理をすることができる。そして、今この資料にも色で仕分をしていますが、関連づけたものを色づけをし、そして枠で囲う。こういったことが、あっ、違ったな、もっとこうかもしれないと思ったら、それを簡単に入れ替えることができます。付箋だったら、また書き直さなくてはいけません。そういった時間的なこと、容易にできるということ、これが効果の一つであるかと思います。

それから、実は他校の取組なんかも、もう既に交換し合おうかなということで取組のことをお聞きすることがあります。ある学校では道徳の授業で使われていました、同じ機能を。このことについてＡの立場になるのか、Ｂの立場になるのか、これをまず第１段階で、この付箋機能を使ってＡの立場、Ｂの立場で自分の意見を表現します。ところが、授業が進むにつれて変わるんですね、子どもたちは。そうすると、簡単にそれを変えていくことができるということです。そんなふうに、この機能を使ってどういう授業をつくっていくか、どういう授業のねらいに沿って効果的に使うかということで、いろんな使い方があるのではないかと思います。全てが答えられないんですけれども。

○妹尾教育委員　いやいや、ありがとうございます。

○市長　ここらでよろしいですか。

○妹尾教育委員　はい。

○市長　じゃあ、河内委員、お願いいたします。

○河内教育委員　第２期教育大綱が策定され、本年度から新たな目標に向かって、小学校長会、中学校長会のリーダーシップの下、各校で熱心に教育実践をなさっておられるということが校長先生方のご説明を伺い、よく分かりました。大変ありがたく、心強く拝聴いたしました。

この第２期教育大綱で定められた、岡山市が目指す子どもの姿、「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」という文言を私は大変気に入っています。今の教育の大きな課題であるという点で奥深い意味を持って、とても重い言葉だなと思っています。その中の選択と挑戦を繰り返すということについては、先ほどの校長先生方のご説明の際に、子どもたちの具体的な姿を描きながら聞かせていただきました。例えば、Ｃ

ｈｒｏｍｂｏｏｋを活用して情報を収集し判断したり、体験的・協働的な学習を通して新たな考えや生き方を学んだりするというような姿です。

育む５つの力を身につけさせながら選択と挑戦を繰り返すことができる子どもを育てる授業をしようと思えば、先ほど山本小学校長会長がおっしゃっていたとおり、かなりレベルの高い授業力と指導力が求められると思うんですね。そういう意味で、各学校のますますのご努力、それから教育研究研修センターを中心とした教育委員会事務局の強力なサポートということが必要になってくると思っています。

もう一つの自らの個性を磨くということは、これは真に互いの個性が尊重される集団の中で、子ども一人一人が自分の個性をしっかり理解して、自分のことが好きで自信を持っているといった集団と個、それぞれの成長が相まって実現できることだと思います。このことは先ほど三木中学校長会長もおっしゃっておられました。このオリンピックの開催の経緯の中で様々な人権問題が議論され、多様性を認め、尊重することの難しさや未熟さということに気づかされました。子ども一人一人をじっくり見れば、一見、見えにくい様々な困難や劣等感、それから孤立感などが見えてくると思うんですね。そうしたことが乗り越えられるように、一人一人の子どもに寄り添ったり、みんなが安心して成長できる集団づくりをしたりすることで、大綱に２つの目標が掲げられていると思うんですが、全国平均レベル以上の学力、それから新規不登校児童生徒の減少、この目標の実現が見えてくるのではないかなというふうに思っています。

第２期教育大綱が出来上がって、この大綱に責任を持つということについて考えてみたんですけど、これは各学校で日々の具体的な授業実践や教育活動全般の指導に落とし込んで、しっかり実践する、対応するということだと思っています。そのためにこれからも皆さんで知恵を出し合ったりサポートしたりしていきたいと思います。

以上です。

○市長　ありがとうございました。

それでは、片山委員、お願いします。

○片山教育委員　失礼いたします。私が今日のお話をお伺いして、ＩＣＴが導入されるということについて最も心配だったことというのが全て払拭されました。と申しますのが、私がそのＩＣＴの活用がどんどん導入されることによって最も心配だったのは、個別化が進むんじゃないか。要するに個に閉じられた学習が進められていくことと、それから体験的な学びというのがどうしても減っていくんではないか。一人一人が画面に向き合ってい

る時間が増えて、人の顔を見るということが減ってしまうんじゃないか。そんなことをとっても心配していたんですけれども、校長先生方からご実践のいろんなお話をお伺いして、個の学びと、それからそれを生かしながら協働的に学んでいくということが、とても相まって学習が深まっていくんだなということをとても感じさせていただきました。

頂戴した資料の中の、お子さんたちがとても一生懸命集中して取り組んでいる様子を見ると、先ほどお示しくださった「授業で、わかった・できたと感じてうれしくなるときがある」という、そういう個人個人がしっかりと学ぶ意欲を持って、自己課題を持って学ぶというところにつながっていくんだなということをとても感じさせていただきました。

１点お尋ねしたいんですけれども、子どもがＣｈｒｏｍｂｏｏｋを活用するということに関しては、家庭の状況とか、その子のそういったものへの興味・関心というのがすごくあって、先ほどのいろんな学びの付箋の使い方であったり、そんないろんなバーチャルな世界の中で自分で操作しながら学習を進めていくというところでの個人差というところに、個々にはなかなか自分の画像しか見えないと思うので、そういったその子その子がどういう経過で学んでいるかということに関して、担任の先生、授業をなさる先生がどんなふうにそれを把握されるのか。今までだったらノートとかをぱっと見れば経過が見えると思うんですけど、その機械の中というか、画面の中の子どもの学びの過程というのをどんなふうに捉えられようとされているのか。もし可能でしたら、そのあたりをお聞かせいただければありがたいです。

以上です。

○市長　じゃあ、どなたか今の問いにお答えいただけますでしょうか。

はい。

○梅原校長　失礼いたします。本当に大きな課題かなと思います。まず、家庭の背景の中で、家庭の環境の中で、いろいろ今までの経験差等々もありますので、当然個人差が出てくるだろうと思います。そういう中で、やってみて感じたことで、先ほどお話をさせていただいたように、お話もいただいたように、個人の作業と協働的な学びというものがうまくつながっていくような授業づくりを必ず進めていきます。そういう中で、実は協働的な学習班での活動などをするときに、自然に子どもたちが教え合う場面、それから分からないことが分かると自然に言えるような環境というものがとても大事かなと思います。

これは教育委員からご指摘いただきましたが、一番の土台が子どもたちが安心して学習ができる、こういう雰囲気、これが人権が尊重される学習環境だと思うんですけれど、ま

ずそれが大前提にあって、分からないから学ぶんだ、できないから学習するんだということが大前提にあると思っています。そうやって子どもたちが安心して、僕はこれが分からない、私はこれが分からない、そして子どもたちが安心して、そっとそのことを教えてあげるというようなことでやってくれている、こういう雰囲気がもうどこの学校でも今築かれているんじゃないかなと思います。

これが一つと、それからもう一つは、教師もそのことが意識されていて、今実は子どもたちが使うことについては非常に経験が豊富で、すぐに使えるんです。今までで、かつてと違うのは何かというと、全部教える必要はない。ポイントが教えられれば、どういう目的でどう使っていきたいんださえ伝えれば、実はどんどん子どもたちが工夫して使っていくことができます。さらに言うと、スモールティーチャーがたくさんできるんです。できていた子どもたちが、力のある子たちが子どもたちに、先ほどのことも一緒なんですけれど、教えていくということができます。

そういう中で、先ほどおっしゃられた画面の中での学習の過程、学びの過程をどう把握するかということは非常に大きな課題で、そこの工夫をしていかないといけないなということを思っておるところであります。

私からは以上です。

○片山教育委員　ありがとうございます。

○市長　よろしいですか。

○片山教育委員　はい、ありがとうございました。

○市長　じゃあ、石井委員、お願いします。

○石井教育委員　失礼します。ありがとうございました。私、今日一番びっくりしたのは、デザイン思考という言葉がこの場で聞けるというのは非常にびっくりしました。企業社会で使われている言葉ということでご紹介いただきましたけども、企業社会の中でもまだまだ新しい考え方で、とても広まっているとは言えないような状況で、でも非常に大切な考え方で、会社の中でも課題を解く力というよりも、課題自体を自分で設定する力、これが本当に強く求められる中で、そういう社員の人に入社してきてほしいなと思うところですけども、それを先生方がもう既に実践をされているということをお伺いして、非常に驚いたというか、早い取組をされているんだなと思いました。

それも新しい教育大綱の中で、梅原校長先生は前から考えられてたことかと思うんですけども、この新しい教育大綱の中でそれが一層推進されているというふうな捉え方をさせ

ていただきました。それから、山本会長からも基礎的な学力向上の力を大切にしながらも、総合的な学習とか探究的な学習を増やされているという中で、なぜという気持ちをきっかけにして学習を進めているんだという、そういうお話も先ほどのデザイン思考の話とつながる要素で、そういう力をぜひ育んでいただきたいなというふうに強く感じました。ありがとうございます。

それから、その中で山本会長から、これ、全体としてやるのか、個別でというお話もあったのと、それから最初の教育長のお話の中で指標の使い方が学校で違いますよというところもあって、そのあたりは私が意見するようなことではないとは思うんですけども、感覚的には当然最終的な目標というのはどこの学校も一緒だろうし、それに必要な指標も多分最終的には一緒なんだろうと思うんですけども、各学校の置かれている状況、環境が違うとか小規模とか大規模とか、いろんな違いがあろうかと思うんで、そのステージごとに、個別に設定するステージというか、課題というのはやっぱりちょっと違う部分もあり得るのかなという想像をしながら拝聴しました。

以上です。ありがとうございます。

○市長　ありがとうございました。

じゃあ、私からも一言言わせていただいて、あと時間の許す限り、それぞれの意見に対しての質問、意見、どんどんお話しいただければと思います。

第１期と第２期、全てに関わった人間として少し言わせていただきたいと思います。

まずは、今の動き、中学校長会、小学校長会、そして高島・伊島の中学校・小学校の皆さん方の取組はすばらしいと思っております。梅原校長がおっしゃったように、私、高島中に行かせていただいて、Ｃｈｒｏｍｂｏｏｋを使って明治の複雑な、子どもたちにとっては結構複雑ではないかと思われるようなものをうまく整理をして議論といいますか、わいわいやってました。そういう面では随分頭の整理ができてるのかなと。なかなか有用なもんだなというように思ったし、かつ、先生方の教育といいますか、先生方がある程度熟知してないとできないと思いますんで、その辺でよくやられているなという感じがいたしました。本当にありがとうございます。

実は最初に１期目からずっと携わってててという話をさせていただいた根源的なものなんですけれども、実は最初、私がこの市長に就任して驚いたのが、国語の成績がよくない。その中でも特に無解答率というのが全国平均に比べて、たしか1.7倍だったと思うんですけど、答えを書いてない。これは国語というのは我々の言葉で、何か問題が起こったとき

に日本語で頭の中で考えなければならない。この日本語ができてなければ将来困るんじゃないのというふうに思って、レベルアップを、ステップアップをお願いしたところであります。

様々な問題はあったにせよ、教育長、教育委員会とも議論した中で最大の問題は何だったかというと、特に今若い先生方が多いということもあって、どんな授業をしていいかがよく分からない。みんな１人ずつが責任を持たされてやっている。それ、かわいそうなんじゃないかと。我々だって、ある部署に就いたときには上司から指導を受けるわけでありまして、そういうものがなくて、同じ先生としてベテランの先生と同じように若い先生が完全に任される。任されるのはいいかもしれないけど、それは一つの線みたいなものが教育委員会、校長、教頭、先生という形で、それもベテランの先生、そして若い先生というふうに、一つの教育の考え方みたいなものが、ないしは授業の仕方というものが一貫したものがないと、これは先生だって、かわいそうなんじゃないかと。それが延べ３年の間に教育長、教育委員会、そして各校長のご努力によって大分整理ができた。それが結果として学力の向上になったりしているということなんじゃないかと。

資料の中にもありましたけども、学力の向上ができたことによって、授業で、「あっ、わかった。」という、うれしさ、楽しさを感じることができ、これが様々なところにプラス要因として働いてるということなんじゃないかなというように思うんです。そもそも英才教育をやるために、この学力の向上を考えたわけじゃないんで、物事を考えるための基本的な能力といいますか、これからの将来、選択と挑戦を繰り返すことができる前提となる一般的な知識というか、そういうものを植え付けていくということが重要なんで、したがってその点を今回で、じゃあ１期目の話を忘れていいかといったら、私はそれは違うだろうと。それをどうやって実践をしていくかということがまずは重要だということが１つ。

それからあと、中学校長会と小学校長会の話、これはすばらしい話だと思います。例えば、中学校長会の資料には校長会での授業づくりについての意思統一、小学校長会は教育活動、これも授業づくりの在り方の検討・実践と書かれている。これもすばらしいことだと思うんですが、それがどうフォローされているのか。どう検証されているのか。一定の意思統一がなされたときに、こういうことでやりましょうと言っているものが本当にできてるのかどうか。それをどう検証していくのか。こういったことというのは、すごい重要だなというように思うんですよね。

よく計画をつくって終わりみたいなことというのがありますよね。計画をつくっただけで俺たちやっちゃったみたいなことで、何か気分よく終わっちゃったというような、それは子どもたちにとってみると決して望ましいことではないわけで、私も石井委員と同じように、それは各学校の特色があって当然いいわけで、その置かれた環境も違うわけでしょうから。ただ、それをいろんな環境の違いというものでものを整理して、それは校長も少人数の学校だったら、こういうことでやったほうがいいねという認識を持って、かつ、それをどういうふうに実践したのかという、それによっての成果というものの違いみたいなものをできるだけ定量的に表していく。

みんなやっぱり岡山市民の子どもたちなので、その子どもたちが将来的に十分自分で考え、自信を持って行動できるようになってるかどうかということをぜひ校長会の皆さん方、校長、教頭には一つ一つの検証というか、ぜひやっていただきたいなというように思うんです。そういうものをこういう場で発表していただければ、次のステップの議論ができてくる。今回はどっちにしてもつくってまだ１学期しかたってないわけですし、新型コロナウイルスの騒ぎが非常に大きくなってますから、なかなか平常の授業とちょっと違うというところがあって難しいし、なかなかいつもどおりにはならないと思うんですけど、ぜひそういう振り返っていただいて、自分たちは何をやったのか、子どもたちにとって具体的に何が動いたのかということを検証していただきたいなというように思います。

私からは以上でありますが、それぞれ教育長、そして各校長、委員からの指摘、ないしは私の指摘等を踏まえて何かございましたら、あと10分しかなくなりましたけど、よろしくお願いします。

教育長、一言。

○教育長　本当に深まった議論といいますか、いろんな深い方向性を示していただいたなというのを感じております。この大綱、第２期の大綱というのは、教育の理念について語っている大綱でありますので、本当にこれを実のあるものにしていくということが大切であるかなというふうに思います。そのときに私が今思っている、感じていることといいますか、こういうことが大切なんじゃないかなということを何点か話したいんですが、まず今日も議論の中で多くの場面を占めておりましたけど、ＩＣＴであります。

実は今度、文科省が中教審に対して教職員の育成について審議をしてもらうんですが、免許更新制度がどうもなくなるということで、講習がなくなるということで、その代替として何が大切かということで、要はＩＣＴはこれはもう必須のアイテムであるということ

を強く出されています。たくさんの予算をかけてやっていることですから当然のことかもしれませんが、非常に重要なんだなということを１つ思っています。

それから、今日もいろんな校長先生の話の中で出てきましたが、総合的な学習の時間、この総合的な学習の時間って実は何をするかなんですが、要はＥＳＤやＳＤＧｓだと思います。ＥＳＤ、ＳＤＧｓで大切なのは、子どもたちが地域に出ていくこと、地域と一緒になって課題を考えていくことではないかなというふうに思っています。地域に根差した教育実践をさらに進めるということがこれから大切かなと。そして、特別活動や道徳、これも必須のアイテムであろうというふうに思います。

こういう２つの大切なやるべきことがあるんですけども、校長先生方がこれからも先生方と一緒にいろんなことを考えていくときに、できればトップダウンではなくて、ボトムアップということを考えていく必要があるんではないかなと。なぜならば、先生たちもこれから予測不能な新しい時代に生きていく者なんですね。子どもたちと一緒に先生は新しい時代を生きていく。本当に予測不能で、どうなるか分からない時代を生きていく。もう最前線に立っているわけです。実はそういう先生のいろんな考え方がこれからの教育を引っ張っていくんだろうなと思うので、こうしろ、ああしろではなくて、どんなふうにしようかな、みんな意見、知恵を貸してくれやというような、そういうリーダーシップの取り方が大切なのかなということを考えました。

そして最後になりますが、学校で取り組んでいることとか成果、先ほど市長からもありましたけども、それをやっぱり見える化しないといけないのでしょうね。どんどん地域に見せていく。こういうことをやっているんですよとか、ここまで子どもたちは成長しましたよというのをどんどん見せていく。もちろんプライバシーのこともありますから配慮が要りますが、見える化ということがこれからの学校で取り組んでいく大きなことなのかなということも思いました。

以上でございます。

○市長　時間がだんだんと来ましたけども、何か特にというのがあれば。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　教育委員会、総務局、何か特にというのがあれば。

よろしいですか。

じゃあ、時間もそろそろ来ましたんで、実は教育長から話があった中の一つ、若い職

員、先生たちのボトムアップといいますか、先生たちの意見をよく聞いてくれ、そして一定のものを形づくってくれという話は私も同感でして、実は先日、教職員組合の人たちと話をする機会がありました。先生たちはよく考えてるなというのを肌で感じたところであります。そういう意味で、非常に見識のある方が校長をやっておられますんで、もちろん心配はないんですけれども、逆に言えば、そういう若い人たちの話を聞いていただければ、より懐の深い方々が校長になっているわけですから、それらを含めて、全体としてもっといい案が出てくるかもしれません。ぜひよろしくお願いをしたいと思います。

以上で本日の協議を終えたいと思います。

次回は、そういう今私と同じようなことを言いましたけれども、見える化というか、具体的に何がどう動いているのかというのを具体的にこういう場でもお話をしていただければと思いますんで、特に校長会の会長さん方、これからの議論をよろしくお願いしたいと思います。

それでは、事務局にマイクをお返しします。

○司会　ありがとうございました。

次回の会議につきましては、改めて通知させていただきます。

以上をもちまして令和３年度第１回総合教育会議を閉会します。本日はどうもお疲れさまでした。

午後４時54分　閉会